

平成二十七年新作名刀展の概要

表彰式・講評・受賞作品・受賞のことば

当協会主催「平成二十七年新作名刀展」は、作品の受付期間を四月一日（水）から三日（金）までとし、四月十日（金）に協会四階講堂において部門別に審査が行われた。審査員は「作刀の部」一〇名、「刀身彫の部」八名、「彫金の部」八名であった。

出品総数は七七点で、その内訳は無鑑査が一四点（作刀の部一一点、彫金審査員



協会役員



の部三点）、無鑑査を除く出品数は六三三点（作刀の部三九点、刀身彫の部三三三点、彫金の部二一点）である。

厳正な審査の結果、特賞には作刀の部で六名、彫金の部で二名が選ばれ、刀身彫の部は該当者がなかった。

全部門を通じて入賞者は三二名で、特賞は、作刀（太刀・刀・脇指・薙刀・槍）の部では、本年から再開された高

新作名刀展 展示会場



松宮記念賞に久保善博氏、協会会長賞に高橋祐哉氏、薫山賞・新人賞に金田達吉氏、寒山賞に高見一良氏、同じく寒山賞に上畠誠氏、また作刀（短刀・剣）の部では、協会会長賞に加藤政也氏が選ばれた。彫金の部では、協会会長賞に山下秀文氏、薫山賞に川島義之氏が選ばれた。本年は作刀の部で金田達吉氏と山副公輔氏（努力賞）が新人

賞を受賞した。

優秀賞は六名（作刀の部五名、刀身彫の部一名）、努力賞一七名（作刀の部七名、刀身彫の部二名、彫金の部八名）であった。入選者は三二名（作刀の部二二名、彫金の部一名）となっている。

表彰式は四月二十八日（火）の午後一時から当協会四階講堂で行われ、総務部長から経過報告があり、小野会長より主催者挨拶、引き続き特賞以下の受賞者に対し賞状、賞金、副賞が授与された。入選者への証書の授与の後、各部門別に吉原義人（作刀の部）、柳村仙寿（刀身彫の部）代読、萩原守（彫金の部）各氏の講評、受賞者代表の答辞があり、表彰式は滞りなく終了した。

無鑑査及び入選以上の全作品は四月二十八日（火）から六月七日（日）まで刀剣博物館に展示された。

同展はその後、八月一日（土）から同二十日（木）まで山形県の致道博物館にて、九月十二日（土）から同二十七日（日）まで埼玉県川越市立博物館にて巡回開催される。